

Yanomamo

Napoleon A. Chagnon

Chapter 4: Social Organization and Demography

SOCIAL STRUCTURE

pp. 137-1

社会交流を説明または正当化するために引用する抽象的な規則や原理

→調査者がどのように学び取るのかは説明困難

→私たちが、私たちの文化においてその規則を学ぶことと同じ

(a)親族、(b)出自、(c)婚姻の場面においてしばしば表現される

質問：「あなたは誰それと結婚することができますか？」

返答：「何だって？ ダメだ！ 私は誰それとは結婚できない！ 彼女は私の *yuhaya*（自分の子供の娘、または自分の姉妹の娘；孫娘）だ!」、「ダメだ！ 彼女は私の *taaya*（娘；兄弟の娘）だ!」

suaboya：男性が結婚できる、女性の親族カテゴリー

→双方交差イトコ

「あなたは誰と結婚するのか？」という質問の奇妙さ

「男は彼らの *suaboya* と結婚すべき」→「私たちは私たちの妻と結婚する」

pp139-2

婚姻規則＝親族用語→文字通り誰が結婚できて誰が結婚できないかを定義

私たちが言うところの「義理の」に対応する用語は存在しない

→近隣者のすべての人々はなんらかの親族関係にあり、それゆえ、社会生活は親族関係を基盤として起きている

例 1) *Kaobawa* は、親族の用語によって *Rerebawa* を呼ぶが、実際には血縁関係はない

例 2) *Kaobawa* は私を *hekamaya*（甥（姉妹の息子））と呼び、*Rerebawa* は *aiwa*（兄）と呼ぶ

→その親族にふさわしい社会行動を期待される

→親族のシステムの外にいること＝人間ではない

yawaremou：近親相姦

→男性は、彼らの義理の母親に対して、顔を見る、名前を呼ぶ、近寄る、触れる、話かけるべきではない

episode1

ある時、私は、私を手伝ってくれるために残った 2 人の若い男と共に、捨てられる村の地図を製作していた。その村の近くで作業を進めていたとき、1つの炉に出くわした。若い男の一人は、その村の中央から出ていき、私たちが向かう先に 3、4 歩進み、戻ってきてその廃棄された炉の反対側に立っていた。私が、彼はなぜそのような不思議な行動をとるのか尋ねると、もう一人の方が、困惑しながら私にささやいた「彼の義理の母がそこに住んでいる!」。それから、二人とも赤面した。

episode2

「義理の母」に対応する言葉は *yaya* であるが、この親族用語は、「父親の姉妹」、「祖母」というそこまで避ける必要がない女性をも意味する。

ミシガン北部にいる私の妻の家族を一年間訪ねていた際、私は、私が妻の母を抱きしめ、彼女の頬にキスをしている姿を何気なく写真に納めていた。次のフィールド調査の際、私は、私の家族と妻の家族の写真と一緒にこの写真を携えていた。私は、これらの写真を *kaobawa* の人々に見せたところ、彼らの興味を引いた。最後に、あの写真に至り、彼らは私を確認し、「あなたが抱擁しているのは誰ですか？」と質問した。「私の *yaya* だ。」と私は答えた。くすくすと笑い声が続き、その後、彼らの中の一人が「彼女はあなたの父親の母親ですか？」と訪ねた。私は「違う」と何気なく答えた（祖母とある程度親しくすることは許されている）。「そうか！ 彼女はあなたの母親の母親に違いない」。私は平然と「違う」とまた答えた。ささやきが続いて、それから、彼らの楽しげな笑いは、恐れ of 形相に変わった。残された選択肢は1つしかなかった「そうか！ あなたの父親の姉妹か。」私は、不安が広がったためだったが、再び平然と言った「違う。彼女は、私の妻の母親だ。」狼狽した笑い声と抗議のうめきが、人々から爆発した。私が、大胆で破廉恥にも近親者に対する禁忌を犯し、さらにはその行為の写真証拠を携帯していることは、彼らには信じられなかった。それから数年の間は、遠くの村からの訪問者は、私の小屋に来て、私が禁忌を破っている写真を見せてくれるように頼んできた。それは、いわば過激なポルノ写真のようなものであった。

pp140-3

shoriwa : 結婚している、するつもり of の、することが可能な女性 of の兄弟 : 男性 of の交差イトコ
母親 of の兄弟

→男性は、上記の親族に対して親愛な態度をとる

pp140-4

ヤノマミでは、男性を通した出自は、女性を通したものよりも重要である

父兄リネージ : 系図の中から男性 of のみのつながりを利用して祖先のある男性まで出自をたどることができる人々

Figure 4.7 →ヤノマミの父兄リネージ=族外婚の単位

交差イトコ同士=異なるリネージ 平行イトコ同士=同じリネージ

An ' Ideal ' Model of Yanomamo Society

pp140-1

「モデル」→Levi-Strauss のような構造人類学者は魅了される

→親族・出自・婚姻の決まりについて表した抽象的な規則や原則を基礎とする

pp140-2

Figure 4.8 →理念的なモデル図

→婚姻単位である 2 つの半族に分けられる

→すべての男性は、彼の FZD でもあり MBD でもある女性と結婚することを繰り返す

pp141-3

Figure 4.9 →分村の過程

村 A

→2 つの父系リネージ X,Y を含み、X,Y は、それぞれ 4 つの「cadet (分家?)」というサブリネージ 1,2,3,4 に分割される

→婚姻は、分家 cadet 単位によってアレンジされる

→理論的には、リネージ X のいかなる男性も、リネージ Y のいかなる女性と婚姻可能

⇨過去の女性交換において、分家 cadet 同士で女性を交換する義務が長期間継続し、お互いを結ぶ独特な分家 cadet ラインを保持する傾向が形成される

→同じリネージに属する同じ世代のすべての男性は、お互いを「キョウダイ」と呼ぶ（現実には、競争者）

⇨X-1 の男性同士＝実の兄弟（父親が同じ）→協力的

X-1 と X-2 ＝遠い（交差）イトコであるが、ヤノマミの親族体系においてはキョウダイと区分される
→競争相手

pp143-4

新しい村→リネージ X と Y 両方のメンバーを含み、分家 cadet ラインは、婚姻の絆によってお互いに結ばれたままである

pp144-5

Figure 4.8, 9 のような理念的モデル→個別的な、特定の事例は無視することによって、他の混乱させる
大量の情報を単純化している

pp144-6

「モデル」⇨「統計的」

フィールド調査者が、幾つかの鍵となる情報によって、「構造的（モデル）」分析をすること

→考古学者が、壊れた土器の破片を発見し、土器のほとんどの部分は失われている場合に、より大きな性質、元々の土器全体を「評価」または復元しようとする

pp144-7

「統計的」アプローチ→男性と女性両方の実際の結婚、離婚、出産の歴史という、より包括的な系図のデータ集を伴う

THE DEMOGRAPHIC BASIS OF SOCIAL BEHAVIOR

pp144-1

連帯 solidarity →集団をつなぎ止める「社会的な接着剤」

人類学的テーマ：未開社会において「力を束ねる」や「団結」、大きな集団の中で個人と集団を友好的に生活させる「吸引力」を与えているものは本質的に何であるのか

pp145-2

村の拡大と分裂の過程→連帯の「失敗」

内部の団結力→親族関係や婚姻の絆、Kaobawa のような特定個人のカリスマなどから発生

pp145-3

なぜ、特定のヤノマミの村が 300 人以上の大きなサイズにまで成長できる（他では、125 人が限界）のかという問題 → 現実の結婚パターンの統計的データを関連させる

Kaobawa がいる地域⇨南方の Shamatari

pp145-4

婚姻の全体的システムが連帯を促進することができる

→Levi-Strauss は、システムに本来備わっている能力であると簡単に片づけた

pp145-5

本研究→全体のシステムを考察する代わりに、特定のシステム内における特定の結婚の形式を調査

→個人間の婚姻がそれぞれ与える、「接着剤」について議論する

Shamatari の諸村⇨ Namowei-teri

pp146-6

コンピューター上において、系図・婚姻・出産のデータすべてをコード化

→各個人「エゴ」ごとにおよそ 20 種類の量的な情報が調べた

→およそ誕生日（年齢）／生まれた場所／母親の名前／父親の名前／すべての配偶者の名前／すべての配偶者の結婚した順番／配偶者ごとの子供の人数／エゴが住んでいる村（生存している場合）／エゴが死亡した場所（死亡している場合）などなど

→ Figure 4.10 と Table 4.1

「親族関係の環」→環が多ければそれだけ強い接着剤を表す

pp146-7

親族関係にある配偶者間のつながりの個数と種類に注目

pp147-8

Figure 4.8 の理念的なモデル（MBD であり同時に FZD でもある女性と結婚）

→生理的な、人口学的な理由のため、希にしか起きない

→ FZD または MBD のどちらかである

交差イトコの種類（Figure 4.11）→キョウダイ間の腹違い half-relationships と交差イトコの遠さによる組み合わせ

pp147-9

双方の交差イトコ婚というシステム内にある様々なタイプ

例) 男性と彼の FFDD との婚姻⇔男性と彼の MMMFMSSDD との婚姻

「遠い」交差イトコ⇔「近い」交差イトコ

これらのタイプの相対的な頻度と分布→ Shamatari の諸村と Namowei-teri の諸村と比較

pp147-10

Figure 4.12 は、個人の婚姻の分布ではなく、婚姻における親族関係のタイプについての総数の分布

例) Figure 4.10 と Table 4.1 のエゴ 0067 と 2 人の妻との婚姻は、個人 2 人の婚姻ではなく、ここでの分布においては 10 の異なるタイプを表し、Figure 4.12 には 10 個のタイプすべてが含まれる

pp148-11

Figure 4.12

→村の規模 Shamatari 諸村＞ Namowei-teri 諸村

→ Shamatari の男性は、より近い交差イトコと結婚している

村が成長できる最大サイズと、その村の男性がより近いイトコと結婚する頻度の関係

人口学的ではない、別の理由

Shamatari の男性が、近い交差イトコと結婚しようと「より懸命に努める」可能性（現実には、結婚を取り決める彼らの両親が「より懸命に努める」）⇒×

→かなり複雑な問題

例 1) すべての男性は妻を見つけるために「懸命に努め」、ほとんどの男性は、ともかく誰でも妻が見つかりさえすれば大喜びである。

例 2) 婚姻規則が邪魔になった際に、彼らは、その規則を破棄しようとしている

一夫多妻制が果たす役割

→様々なタイプの交差イトコ婚を高い頻度をもって伝導する

→特定の人に女性を与え、彼の息子や兄弟に女性を返してもらうという、個人が用いる戦略

Polygyny, Genealogical Structure, and Close Kinship

pp149-1

ある男性がたくさんの妻を得ることに成功→彼の孫（男性）には、結婚可能な交差イトコがたくさんいる

pp150-2

子供の人数（生理的な違い）→父系出自の社会における一夫多妻制＞母系出自の社会における一妻多夫制

pp150-3

episode3

Shamatari の人々の中で、とりわけ成功した男性、数世代前に遡った Shinbone という名前がいた。彼の子供の何人かは、現在も生きているため、個人的に彼を知っているたくさんの人々によって彼はまだ覚えられている。Shinbone には 11 人の妻がおり、子供は 43 人おり、彼らは長生きしたため、人々は彼らを思い出すことができる。彼らの子供は、もちろん、キョウダイまたは腹違いのキョウダイであるため、その中の男性は、彼らまたは彼らの子供が結婚できる女性と交換するために与える、たくさん姉妹を持っていた。その当時、出産に関しては Shinbone ほどではなかったが、Shinbone のようにたくさんの妻と子供をもつ男性は、他に 2,3 人いた。これらの男性達と彼らの息子達との婚姻同盟に入ることによって、Shinbone の出自集団のメンバーは、長期間の婚姻交換において、彼らと「結びつく」。Shinbone の孫達がどのようにお互い関係しているのかについて考えたならば、彼らは、すべてキョウダイ、腹違いのキョウダイ、または、平行または交差どちらかの、イトコまたは又従兄弟である。そのようにして、彼の孫達は、結婚可能な交差イトコをたくさん持ち、彼らが、交差イトコ婚の規則に従うことは比較的簡単であった（Figure 4.13）。

pp150-4

Shamatari →男性の始祖は少ないが、これらの「始祖」は、Namowei-teri の場合よりも、よりたくさんの子供をつくっている

Namowei-teri →男性の始祖がより多いため、よりたくさんリネージがあるということである

婚姻の取り決めにおいて、より衝突と便宜主義を作り出す

episode4

仮説的な見地からは、あなたはリネージ Y に属するとし、長い年月の間、リネージ X から女性を獲得してきたとすれば、あなたは、リネージ X の男性にあなたの女性を与え続けるべきである。しかし、あなたの息子が今すぐに妻を必要とし、リネージ X には結婚可能な女性がいないとすれば、あなたは、ふさわしい女性がいるリネージ Z と女性の交換を始めたくなる。これは、あなたが、交換にリネージ Z に女性を返す必要があることを意味し、リネージ X の怒りを買ってしまう。

※特別な状況や個人のカリスマが関係した場合、別のグループとの一時的な契約をこっそりと結ぶことは可能

pp151-5

血縁関係の濃さ→ Shamatari 諸村＞ Namowei-teri 諸村

「同盟 vs 出自」論争→婚姻同盟と親族関係のどちらがより重要か？

pp151-6

より近親交配が行われている村→より連帯が強くなるべき？

pp152-7

近親交配、ヤノマミでは交差イトコ婚の影響

→互いの出自集団を結ぶ

→子孫が両方の出自集団と親族となることを通して、近い親族関係を生み出す

本稿のような入門コース、限られたテーマを扱うものには荷が重すぎるため、私は、この魅力的なテーマを、さらに専門的な出版物において考察する。

pp152-8

集団遺伝学の分野とコンピューターから借用した統計的プロシージャーによって親族の距離を算出

→親族関係の近さ、出自を基にした婚姻と義務のパターン→連帯を促進するメカニズム

⇨村は、分裂することなく 300 人以上まで大きくならない

↑

実際には、村内において近親交配があまりに多ければ、別のグループからの女性の略取によって近親交配の影響が減少し、そのため、そのプロセスは、時間を通して厳密に累積的ではない。

Kinship Rules, Reproduction, and Rule Breaking

pp152-1

多くのヤノマミの人々は、ルール、特に親族と婚姻の規則を破る

規則が破られる、婚姻が動的であることが目立つ地域→近親相姦を行っている

pp152-2

episode5

Figure 4.14 は、近親相姦の事例であり、Kaobawa の村を紛争へと導き、最終的に彼のグループは、下流の Bisaasi-teri から分裂した。

A は、Kaobawa の父親の世代であり、同じリネージであったため、Kaobawa は彼を「父」と呼んだ。

A は、下流の Bisaasi-teri のヘッドマンである。この男には、数人の息子がおり、彼は息子達の妻を捜していた。彼は、賢くも、系図上の B という女性を彼の「姉妹」と再定義し、それによって、彼女の世代を 1 つ上げた。(彼は、彼女を「姪」と呼んでいたと推定され、彼の人生のほとんどにおいてそうしていた) 彼女は、今、彼の「姉妹」であるため、彼の息子達は、彼女の娘(彼らの父親の「妹」の娘 FZD)と結婚する資格がある、しかし、あくまで区分上の話である。息子達の一人は、彼女の娘達の一人と結婚し、大きな紛争と 1 つの分裂を導いた。

問題→限られた配偶者のプールには、それぞれふさわしい相手がいるにもかかわらず、このプールの中から違法な手段を用いて女性を取り上げるということ

pp153-3

誰かが誰を生んだという系図的な事実→変更不可能

親族区分→男性が妻を見つけることが困難である状況において、彼が妻を見つける機会を増やすために変更する

pp153-4

問題の源→出産の性質と個人の生活史にある

女性→若くして（思春期後）結婚し、子供を産むが、出産可能な期間は、比較的に関短くおよそ 20 年間

男性→遅くに（20 代前半）結婚し、子供をもうけるが、種付け可能な期間はとても長い

episode6

Shinbone のような男性は、少なくとも 50 も歳が離れた子供を持っている。例えば、私の Shamatari のインフォーマントであり親しい友人でもある老人男性は、名前を Dedeheiwa と言う。彼は、当時およそ 65 歳であったが、近くを通ったおよそ 10 歳ぐらゐの少女が、彼を「兄」と呼んだ。私は、彼女はなぜそう呼んだのか彼に質問したところ、彼は、それは事実であり、腹違いのキョウダイであると言った。彼の父親にはたくさんの妻がおり、若いときに Dedeheiwa をもうけた。およそ 50 年後、彼は、異なる妻との間にこの少女をもうけた。

pp153-5

女性の世代間隔は、男性よりも短い

例 1) Figure4.13 →男性の直系ライン（最下層の左端）9 人<女性の直系ライン（最下層の右端）59 人

例 2) 個人の暦年齢が、認識されている世代からは外れている→孫よりも若い兄弟や姉妹を持つ

年齢と世代的認識がある程度重なるように、いくつかの親族名称を時間的に再定義している

The Decay of the Nuclear Family

pp154-1

規則を破る必要性→人口学的問題によって考察

pp154-2

Figure4.15 →高い出生率と 10 歳以前の子供の高い死亡率

→幼い子供ほどではないが、若い大人の死亡率も高い

pp154-3

Figure 4.15 →運び込まれた病気、他の外因的な力によって急激的にその集団の人口学的特徴が変化していない地域における、部族の特徴

→おそらくは人類史における集団の特徴

孤児が多いことが予想される

pp154-4

ヤノマミの離婚率＝およそ 20 %（世界基準からは低いが）

pp154-6

人口 1400 人の大きな村において家族構成を調査

基本的な質問→「母親は生きているか？ 同じ村にいるのか？」、「父親は生きているのか？ 同じ村にいるのか？」、「実の父親と母親は両方とも生きていて、同じ村に住んでいるのか？」など

pp155-7

人類学の教科書→核家族＝人の社会における「基本的な土台」

核家族を持たない数少ない社会（Nyar など）→異常

⇔離婚していない両親を含む家族と共に生活

→約 10 歳になるまで 3 人中 1 人のみ、20 歳になるまで 10 人中 1 人のみ（Figure4.16）

人社会のいわゆる「基本的土台」→統計的データでは、半減期はかなり短い

pp156-8

結婚適齢期（20 歳前半）の男性→実の父親はいない
誰が婚姻を取り決めるのだろうか？

episode7

例えば、仮に、ある男は子連れ的女性と再婚したため、生物学的な息子と、養子の息子がいたとする。2 人の息子に結婚を取り決める時期が来たときに、結婚可能な女性が不足していた場合にはなおさら、養子よりも実の息子の子孫により興味をもつと予想する。

⇔「生物学的な還元主義」であるという批判

pp157-10

親族の再区分（規則を破る）のパターン

- 1.男性→父親が亡くなっている場合、頼れそうな男性に気を遣う
→系図と親族区分を詳しく習う
- 2.女性→人生のほとんどにおいて夫がいる
→系図や親族区分を覚える努力はしない
- 3.婚姻システムが機能（男性が、*suaboya* と区分される女性とのみ結婚する）
→年齢と世代を一致させ、親族区分を変更する必要がある
→男性は、結婚できないカテゴリーの女性を妻のカテゴリーに動かそうとする

pp157-11 ~ 13

episode8

1985 年、私は、これらの考えに対して非常に精巧な検証を行った（詳細は、Chagnon,1988b）。

3 つの村において、私は、村の各個人が他のみんなに対して用いる親族用語を私に教えてくれる、老若男女のインフォーマントをもっていった。誰について話しているのかを私とインフォーマント両方が確認できるように、私がインフォーマントの耳に名前をささやいているある人物のポラロイド写真を、そのインフォーマントに見せた。そして訪ねた「あなたは何と呼びますか？」私は、彼らの反応を記録した。

これらの諸村における以前の数年に渡るフィールド調査から、私は、すべての人々が、4,5 世代前にまで遡って系図的にどのように関係しているのかを知っており、彼らが、親族区分の規則に従ったならば、親族を何と呼ぶのかも知っていた。

私は、老若男女の 100 人のインフォーマントに対してこれを行い、12000 回の返答を得、各インフォーマントが区分するのに要した時間も同様に記録した。

pp157-14

男性→系図や親族についてより詳しい

→「舌先で」覚えている

女性→代数的論理のように「えっと、私は彼の父親をこう呼ぶから、こうと彼の姉妹はそうであり、だから私は彼のことを「夫」と呼ぶと思うわ」

→同じ村に居住している人には、系図的な知識を必要としない「曖昧な」用語を使用

pp158-15

大人の男性(17 歳以上) による親族区分

→統計的に有意なパターンほど、結婚不可能なカテゴリーから唯一結婚可能な「妻」のカテゴリーへ変更

変更された女性→若い、出産能力の高い女性

pp158-16

この調査によってわかった人類学的教訓

1.親族システム→かなり流動的なもの

結婚可能かどうか→ある人がまわりの人々に対して何と呼んでいるのかによって大まかに定義

2.近親相姦をしているという頻繁な告発→ヤノマミの定義上での「近親相姦」

3.操作する人＝信頼ある男性→ルールを破ることに成功し、周りからの支持をもっている

近親相姦→発起人の地位や権威に影響を与えるある種の政治的な行為

出産に関して特をするという意識の有無→操作の結果、出産に関してプラスになるという事実

pp157-17

episode9

Rerebawa は、かつて私に、彼の1番目の息子である Breakosi の未来を確信をもって予想しながら言ったことには「彼は本当にどう猛な子だ。あまりにどう猛であるため、彼は大きくなったら近親相姦を犯すだろう」

近親相姦を成功させる秘訣→規則違反を擁護する準備と、行う能力（自分がどれだけどう猛であるのか）を相手にわからせる

episode10

私が記録した中で最もあからさまな近親相姦の事例は、平行イトコと結婚、またはある場合には腹違いの妹との結婚であり、その男性は、ヘッドマンであるだけではなく、どう猛で名高いヘッドマンであった。

個人的な利益を得るための規則違反→権力があれば、どのような文化においても簡単に行うことができる
身につけた権力→個人的な武勇

受け継がれた権力→操作や違反を是認してくれるたくさんの親族をもつこと

pp158-18

episode11

最後に、このすべてのことを理解した後に、ようやく意味がわかったことがある。

私が、私の妻の母親と抱擁している、つまり近親相姦の写真を彼らに見せたとき、ある人が口を滑らせたことには「おおーあなたはなんてどう猛なんだ」。最初、なぜ彼が近親相姦と個人的な武勇を重ね、別のことからあることを予想したのか、私は理解できなかった。おそらく、彼は、私が行ったにちがいない信じられない行為から、私が、義理の母を抱擁してもうまく逃れられるほどの地位にいたと想像したのだろう。